

ジュエリー文化史研究会からのお知らせー165ー

2015.9.10

◎10月31日の鈴木はる美さん研究レポート案内

10月31日(土)第12回ハンドリングゼミの前(1時～2時)に、
会員の鈴木はる美さんによる研究レポートの時間を設けました。
会員の方ならばどなたでも参加できます。
ぜひご参加ください。

露木宏

タイトル：女性の視点から見た明治期の指輪の普及要因

参加費：1,000円(当日1F受付でお支払下さい)

※資料等の用意もありますので参加者は前もって連絡ください。

参加お申込みは info@jj-craft.com 担当 深谷

「女の視点から見る明治期の指輪の普及要因」について
鈴木はる美

70歳を目前にして、念願だった京都造形芸術大学・通信教育の学生になり、
卒論は仕事とゆかりのある「指輪」をテーマに選ぶことにしました。

テーマは「日本の指輪の普及要因の探究」です。

先行する論文は少なく、手がかりは露木宏著「日本装身具史」と「近代日本の
装身具ージュエリーの歩み100年」だけでした。

1300年にわたり、装身具(頭髪の装身具と宗教儀式は除く)を使わなかった
民族は日本以外になく、その理由は様々あるだろうが未だに謎です。

時を経て着用されるようになった装身具は、幕末の大政奉還と共に西欧化が始まり、
和服から洋服へと着替えた明治期からです。その明治期の指輪は身分の上下を問わ

ず普及していったことは明らかです。

その指輪着用の過程を絵画・ポスターなどの画像史料と小説・文献・広告等の文字史料に分け調査した。そして、明治期に指輪が急速に需要された社会状況を探り、金工作家・工房及び専門店や百貨店等が台頭した要因を明らかにしました。また、時代背景を同じくする小説の文章の中から女性の心理描写や、広告が意図した購買心理を考察し、指輪の普及との関係性を明らかにした次第です。不十分な取り組みですが、今回の発表の機会を与えられ、再度卒業論文を見直しながら、その後の「文化史研究会」で学んだ内容も織り込んだ内容を発表させていただきます。後に続く若い人達が、かならずや継承して下さる事を信じます。

鈴木はる美さんのプロフィール

兵庫県生まれ

京都造形芸術大学卒業

職歴他

新日本製鐵住友株式会社 高島屋東京店にてジュエリー販売を手掛ける。

当時の日本一の売上があがり、その経験を生かし、ジュエリー専門の教育と派遣の会社プラン・ド・ユウを立ち上げ、後進の指導に当たる。

コーディネート研究会主宰・産業カウンセラー協会会員

AFTカラーライセンス協会会員・日本ジュエリー協会会員

研修先

中小企業大学関西校・経営指導員研修講師

全国商店街振興会講師・国際宝飾経営者セミナー講師

ジュエリー専門店や百貨店に於いての研修やジュエリーショーは数知れず。

執筆及び監修

アルキメデスの安全ピン・マイフェアージュエリー・

AAJレポート（ジュエリーコーディネート連載）

ジュエリー・セールス・バイブル

2016年7月刊行予定の「大人のジュエリースタイルブック」監修

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事戸倉博之 spina@precious-chroma